

国連WFPニュース



World Food Programme

wfp.org/jp



レバノンで避難生活を送るファトメさん。

©WFP/Dina El Kassaby



ヨルダンの難民キャンプで暮らすシリア難民一家の家。家財道具はこれだけ。

©WFP



これから厳しい冬を迎えるヨルダンの難民キャンプにて。

©WFP

資金難でシリア人への支援を大幅削減

欧州を目指すシリア難民の増加が報じられています。2011年にシリア紛争が始まってから4年半がたち、シリア人の二人に一人は住む家を追われている状況です。国連WFPの食糧支援は、国内外で避難生活を送るシリア人の生活を支えてきましたが、資金難のため、今年、やむを得ず、シリア国内のおよそ400万人の避難民に対する支援食糧の量を25%削減しました。また、シリア周辺国に住むシリア難民には食糧購入のための電子マネーを送金してきましたが、支援額の半減や、最悪の場合には停止を余儀なくされました。

レバノンに避難して3年がたつファトメさんとアフマドさん夫婦は、当初は時折仕事を見つけて稼ぐことができたので、比較的恵まれているとされ国連WFPの支援対象から外れました。しかし現在は低賃金の仕事で搾取され、病気の子供を抱え、生活苦にあえいでいます。「食費が出せないときは、空腹でおなかが痛くなり泣き出さなように、夜に息子たちのおなかに布を巻きつけています。」とファトメさん。「普通の生活に戻る希望を失いました。わかっています。世界は私たちのことを忘れてしまったのです。私たちは、世界に

とって重すぎる負担なのでしょう。」各国から新たな資金の提供があり、10月、部分的に食糧支援が再開・回復しましたが、資金難による支援不足が続いています。生活苦が続けば、人々はましな場所を求めて移動します。今、欧州へ向かうシリア難民と共に、避難先から戦火のシリアへやむを得ず帰国する人も増えています。また、貧困のため紛争の渦中から脱出できず、危険な場所で暮らし続ける人も多くいます。シリアの人々の生活を支える食糧支援に、皆様の温かいご協力をよろしくお願い致します。

ご寄付はこちらから

インターネットで

www.wfp.org/jp

WFP

検索

銀行から

三菱東京UFJ銀行 本店 (店番 001)

口座種類・番号：普通 0887110

口座名：(トクヒ) コクレンWFPキョウカイ 手数料無料

※領収書発行及び用途指定は、フリーダイヤルまでご連絡下さい。

※三菱東京UFJ銀行本支店からのお振込みは、振込手数料が無料になります。

ゆうちょ銀行

口座番号：00290-8-37418

加入者名：国連WFP協会

※同封の払込票もしくはゆうちょ銀行備え付けの

払込票をご利用下さい。(手数料がかかります。)

お電話で

クレジットカードによる寄付を承っております。

0120-496-819

通話料
無料

【受付時間】9：00～18：00 (年中無休)


紛争と教育：「失われた世代」にしないために

紛争や自然災害など緊急事態に陥った地域では、命を守ることが優先され、学業は中断されがちです。紛争下でも教育を継続できるよう、国連 WFP は学校給食を通して子どもたちやその家族を支援しています。

多くのシリア人難民が暮らすヨルダンのザータリ難民キャンプでは、シリア紛争により長期化する避難生活の中でも教育を続けられるよう、公営の学校が開設されています。しかし、ザータリ難民キャンプに暮らす学齢期の子どもの 50% 近くが就学しておらず、低い就学率が続いています。特に 16 歳～17 歳の少年は 22% しか就学しておらず、課題となっています。国連 WFP は毎日の学校給食を通して、子どもたちが学校に通い続けられるように、そして栄養をとれるよう支援をしています。



「学校教育は、紛争だけを問題の解決方法として育った子どもたち（特に男子児童）に対し、親の世代が見てきた物語以外の視点を与えるのではないのでしょうか。子どもたちが学校に通い続けることで、現状とは違う未来を子どもたちの世代で実現できるかもしれません」とカズン国連 WFP 事務局長は語っています。



世界食料デーキャンペーン 2015


届けよう！未来を育む給食 ～1万人に1年間、学ぶ喜びを～

国連 WFP では、給食を 1 万人の子どもたちに 1 年間届けるためのキャンペーンを 12 月 31 日まで実施しています。

給食は、子どもたちの健全な発育を助け、教育の機会を提供します。キャンペーンサイトでは、アニメーション等で学校給食プログラムについてわかりやすくご紹介しています。ぜひご覧ください！

[1万人給食](#)

このキャンペーンを通じて、あなたも子どもたちに給食を届けませんか？



「RED CUP CAMPAIGN」レポート



国連 WFP では学校給食支援の輪を広げるため、「RED CUP CAMPAIGN」を展開しています。様々な企業が商品にレッドカップのマークを入れ、その売り上げの一部を寄付する取り組みを実施しています。

2015 年 6 月以降、新たにキャンペーンに参加して下さった企業をご紹介します。現在進行中、並びに過去の事例は専用ウェブサイトをご覧ください。

www.jawfp.org/redcup/



株式会社ナックス

マダガスカル産
紳士・婦人セーター
(15 年 9 月～16 年 3 月)



ケンタッキー フライドチキン

スマイルセット
(15 年 9 月 3 日～
16 年 9 月 2 日まで)

日本生活協同組合連合会

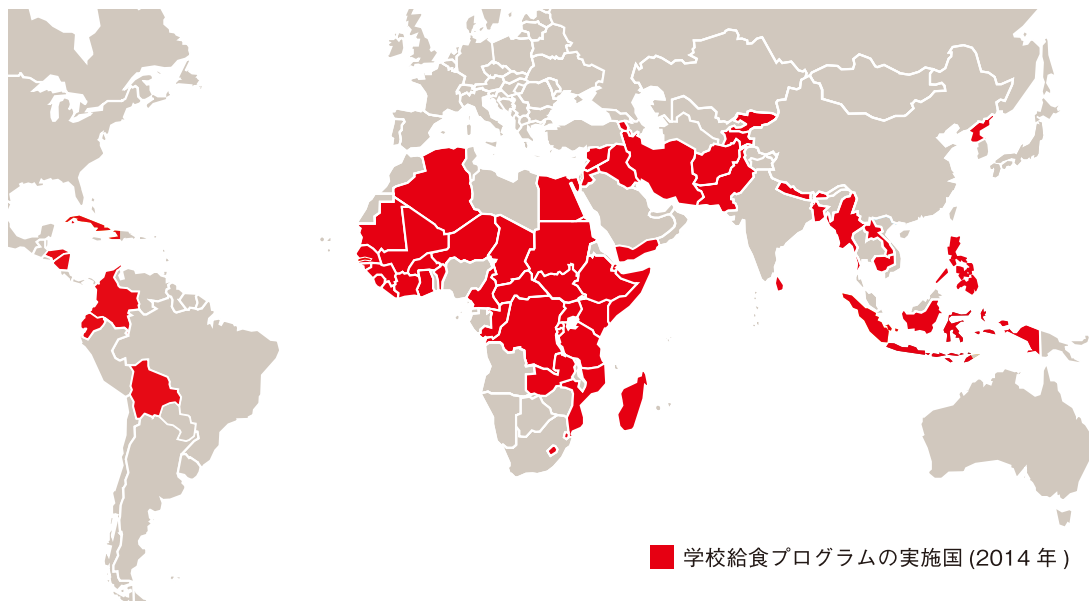


CO・OP コープヌードルシリーズ、
CO・OP&クノールスープバラエティパック
など全 11 アイテム
(15 年 10 月 1 日～11 月 20 日まで)

株式会社ロッテ



ガーナリップル
(15 年 11 月～16 年 3 月)



5,800万人
学校に通えない子ども

65カ国
2014年支援実施国

1,820万人
2014年支援対象者

2014年、国連WFP協会を通じた寄付の中で学校給食支援は全体の45%を占めました。

生活保障、教育の普及、栄養状態の改善や、近年では、地域農業の振興などにも効果がある国連WFPの学校給食プログラム。2014年、国連WFPは65カ国で1,820万人に対して学校給食を提供しました。

学校給食プログラムの最終目標は給食を提供している途上国の政府が国連WFPの給食支援から「卒業」し、自国の制度として独立した給食事業を継続的に運営することです。卒業のための技術支援などを経て、これまでにポルトガルやシンガポール、ブラジルなど30カ国以上が支援を「卒業」し、現在は自国の給食制度を運営しています。



女子校の子どもたち。世界で最も識字率が低い国の一つであるアフガニスタンで、学校給食は教育の機会を広げています。(アフガニスタン)



学校給食プログラムパンフレットが改訂されました。

事例や実施国の地図など学校給食プログラムを包括的に紹介しています。ご希望の方はHPもしくは資料請求にて。

<http://ja.wfp.org/content/wfp-sfp2015>



地元の農家が生産したトウモロコシとインゲンマメで作られた給食を食べる子どもたち。学校で給食を提供すると就学率が向上します。(エチオピア)



女の子が口にしているのはパッションフルーツ。国連WFPは地域で育てられた新鮮な野菜や果物も給食に使っており、これは地域農業の振興にもつながります。(エクアドル)

WFPエッセイコンテスト、過去最多1万5,841通の応募からWFP賞が決定！

皆様に途上国の飢餓問題について身近に考えていただけることを願って毎年開催している WFP エッセイコンテスト。12 年目となる今年は「忘れられない〇〇なごはん」をテーマに募集し、過去最多 15,841 通の応募を頂きました。本コンテストでは応募 1 作品につき給食 1 日分（30 円）が 3 社の企業よりそれぞれ寄付されるため、寄付金額は計 142 万 5,690 円となり、4 万 7,523 人の子どもたちに給食を届けることができます。見事 WFP 賞に選ばれた、東京都四谷インターナショナルスクール高等部 2 年大類啓さんの「特別なクッキー」をご紹介します。



WFP 賞 「特別なクッキー」

東京都 四谷インターナショナルスクール高等部 2 年 大類啓さん

女の子が私にピーナツの入ったクッキーを差し出した。少し汚れて湿ったポケットから両手でこっそり渡そうとしてきた。私は昨年カンボジアの孤児院を訪れた。そこで一番なついてくれた女の子だった。私は迷った。実はピーナツが苦手だ。それにこのクッキーはいつの物なのかわからない。拾った可能性もある。しかし純粋な目でまっすぐに見つめられると受け取らない訳にはいかなかった。気持ちだけ受け取って自分のポケットにしまっておこうと、手をのばした。女の子は口に入れろとジェスチャーで伝えてきた。もうだめだ、ピーナツが苦手とか言える状況ではない。だいたい言葉も通じないのだ。私は思いきってクッキーを口に入れてみた。それは甘くなくしょっぱい味だった。クッキーではなかったかもしれない。女の子はとても楽しそうに笑って、前の日に私が渡した折り鶴を取り出して見せた。そうか、お礼だったのかと私は初めて気がついた。

カンボジアにはホームレスチルドレンと呼ばれる、家も親もない子供が何万人もいる。孤児院の食事も大変質素で十分ではなかった。それでも毎日食べられるだけで幸せなのだ聞いた。ここの子供達にとって食べ物は貴重だ。どんな物も残さず食べる。お菓子はなおさら大事なものだと思う。この女の子にとって最大級の Thank you を私は受け取ったのだ。半分ずつ食べれば良かったかな、と少し後悔した。

普段の週末、私はコンビニでアルバイトをしている。時間が来ると沢山の食品を処分しなければならない。安全な食べ物を提供するために必要なことはよくわかっている。しかし、まだ食べられる沢山の食品を袋に入れる度、私はあの大事なクッキーをくれた女の子の顔を思い出す。私にとって特別な味のクッキーだった。

※ 他の受賞作品や、竹下景子国連 WFP 協会親善大使による WFP 賞の朗読映像は→www.wfpessay.jp/2015

私たちの国連WFP支援 株式会社ファンケル

シニアゴルフツアーを通して日本のシニアと、途上国の人々の元気を支える



株式会社ファンケルは、スローガン「シニアの元気が日本の元気！！」のもと、プロゴルフツアー『PGA シニアツアー「ファンケル クラシック 2015」』を開催し、ファンケル クラシック基金から収益金や募金の全額を、国連 WFP を含めた 3 団体に寄付しています。同社の社会活動方針である「地域とのつながり」や「ハンディキャップを持つ人々との交流」に基づき寄付先を選定し、2008 年から国連 WFP の支援を行っています。

大会ではチャリティオークションや募金などを実施。また、CO₂排出削減など環境に配慮した大会運営を行っており、本ゴルフツアーを通して集まった寄付金のうち 196 万 8,070 円を本年も引き続き国連 WFP の食糧支援に寄付しました。担当の臼井裕人さんは「今年は、優勝された室田淳プロよりグランドシニア賞をクラシック基金にご寄付頂き、国連 WFP に 100 万円を超える寄付を行うことができました。今後も国連 WFP の学校給食プログラムを応援していきたいです。」と話しています。



三浦雄一郎 国連WFP協会親善大使のネパール視察報告会を開催

ネパールでの大地震からおよそ3カ月後の7月下旬、国連 WFP 協会親善大使の三浦雄一郎さんが現地を視察しました。そして約1カ月後の9月1日、国連大学にて、一般の方々や支援企業の方々を招いての報告会「三浦雄一郎が見たネパール震災～国連WFPの支援現場～」を開催しました。

初めに元国連 WFP アジア地域局長で現国連 WFP 協会顧問の忍足謙朗が「自然災害における国連 WFP の緊急支援」と題した講演を行いました。忍足顧問は、主にフィリピンで自ら指揮を執った緊急支援のエピソードを交えつつ、緊急支援の開始から終了、そして次の自然災害に備える活動に関する包括的な話をしました。また、近年、気候変動による自然災害の件数は急増しており、国連 WFP の緊急支援の必要性は高まっていると言及しました。

続いて三浦さんがトークショー「ネパール大地震から3カ月～復興への道のり～」に出演しました。これまでに3度エベレスト登頂を果たすなどネパールと縁が深い三浦さん。震災後初めてとなった今回の訪問では、一変してしまった山間部の村々の景色を目の当たりにし、また被災者の方々から直接話を聞くなどして、改めて被災の深刻さを実感したそうです。一方で、厳しい環境においても確実に支援を届ける国連 WFP の輸送力を実感し、また現地の人々や現場で働く国連 WFP スタッフの復興に向かう強い意志を感じ、胸を打たれたと語りました。



左から忍足顧問、国連 WFP 協会会長安藤宏基、駐日ネパール連邦民主共和国特命全権大使マダン・クマール・バッタライ様（来賓）、三浦さん、WFP 日本事務所代表代行中井恒二郎、外務省国際協力局緊急・人道支援課長廣田司様（来賓）



支援の世界で「物流のリーダー」の国連 WFP が運営する人道支援物流拠点。国連 WFP だけでなく150を超える支援団体が震災直後からこの拠点を利用してきた。



学校のがれき除去作業に保護者たちが参加、国連 WFP はその労働の対価として現金を配布。炎天下のなか奮闘するお母さんや前向きに生きる人々が多く見られた。



車が入れないような場所には、ヘリコプターや、ラバ、ポーターの力によって食糧が運ばれた。三浦さんと、日本からの支援を運ぶラバ。

当日の参加者は315名にのぼり、終了後のアンケートでは「国連 WFP の緊急支援を深く理解でき有意義でした。」といった感想を多くいただきました。

ネパールでの緊急支援活動は現在、最終段階に入っており、道の修復など地域資産の復興に従事した人たちに現金を配布するなど、被災者の自立や復興により重点が置かれた支援を実施しています。しかし最貧国の一つであるネパールにおいては今後も復興支援をはじめ、学校給食支援や母子栄養支援などの支援が実施されます。緊急支援に対する皆様からの多大なご支援に感謝すると共に、今後もネパールへの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

15年間で飢餓をなくそう ～持続可能な開発目標と「飢餓ゼロ」の取り組み～



9月、国連総会で世界全体の新たな開発目標「持続可能な開発目標」が採択され、その目標の一つとして、今後15年間で飢餓のない世界の実現を目指すことが決まりました。

Q. 「持続可能な開発目標」って何ですか？

2000年に国連は、世界の貧困削減と開発を目指した「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals、略称 MDGs)」を掲げました。今年末に MDGs が達成期限を迎えるにあたり、その成果と残された課題を元に策定されたのが「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals、略称 SDGs)」です。

途上国だけでなく、先進国も対象に「貧困や飢餓に終止符を」「格差の解消」「経済や社会の持続的な発展」「気候変動への対処」など17の目標からなり、「(開発から) 誰一人取り残さない」社会を2030年までに達成することを目指します。

Q. 飢餓問題とはどう関係あるの？

飢餓人口の割合の半減を掲げた MDGs は大きな成果をもたらし、1990年以降の23%からこの20数年間でおよそ13%へと半減しました。SDGsはこの成果を引き継ぎ、17の目標の一つとして「飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養改善を達成し、持続可能な農業を推進する」ことを目指していきます。

Q. 国連 WFP は何をやるの？

「飢餓ゼロ (Zero Hunger)」、すなわち飢餓のない世界の実現を目指し、給食や現金支給などの生活保障、子どもの栄養改善、防災や緊急支援、農家支援などを引き続き行っていきます。新たに「未来はひとつ、飢餓をゼロに」というキャンペーンを立ち上げました。動画を公開しましたのでぜひご覧下さい。また、ソーシャルメディア用に、「飢餓ゼロ」を応援する特別なプロフィール動画を作れるほか、投稿に「#ZeroHunger」や「#飢餓ゼロ」というハッシュタグをつけていただく方法もあります。詳しくは <http://ja.wfp.org/news/news-release/151017> から。

鈴木 邦夫 国連WFP協会 新事務局長 就任

10月1日、鈴木邦夫が国連 WFP 協会の新事務局長に就任しました。就任にあたって意気込みなどを聞きました。

Q. 飢餓問題に関心を持ったきっかけは？

2008年から2年間中国に暮らしました。中国で宴会といえば食べきれないほどの料理がテーブルに載るのが恒例です。一方で、1食一元(20円)のラーメンがまだまだご馳走の農村もあると知り驚きました。成長著しい経済大国にもかかわらず、生活の基本である「食」に大きな格差がある。世界に目を向ければ、それ以上に大きな不均衡と飢餓の問題があることに気づかされました。

Q. 飢餓ゼロに向けて、日本の民間窓口である国連 WFP 協会としての役割は？

日本の皆様からお寄せいただいたご寄付を飢餓で苦しむ人々のもとへ届けること、また、寄付を通して世界にまだまだ残る飢餓の問題を自分事として認識していただくことも当協会の使命と考えています。

Q. 事務局長に就任するにあたって、意気込みを聞かせて下さい。

国連 WFP は国連唯一の食糧支援機関として日々、飢餓ゼロを目指して支援活動を行っています。この活動と理念を一人でも多くの方に知っていただくと同時に皆様の善意が確実に届けられていることをお伝えする事も大事な役割です。これからも支援の輪を広げ、さらなるご協力が得られるように努力して行きたいと考えています。



鈴木 邦夫

1958年名古屋生まれ。東京大学文学部仏文科を卒業、大手広告代理店に入社。日系、外資系を問わず様々な業種・業界の営業担当を歴任、国内外のコミュニケーション、マーケティング計画、実施に携わる。その間、オランダ(1987-1991)中国(2008-2010)にも赴任し当該地での広告活動にも従事。趣味は読書とバイク。家族は妻と子ども2人。